

カーディフ大学日本語教育プログラム報告書

齊藤司紗

1. 研修期間

*2月20日(月)~3月17日(金) (4週間)

2. 参加者

*指導教員:

百濟正和先生 カードィフ大学

*実習生:

齊藤司紗 姫路獨協大学 外国語学部 3年

音地祐弥 北九州市立大学 文学部 3年

3. 費用 (1ポンド=約140円)

*プログラム参加費:1800ポンド(約25万円)

*渡航費:約11万円

*現地での生活費:約10万円

(昼食代や交通費。ロンドンに行った際の交通費と宿泊代も含む。)



4. スケジュール

- | | | |
|----------|-------|----------------------------------|
| 2月17日(金) | 19:15 | 関西国際空港から出国 |
| | 22:40 | 香港国際空港でトランジット |
| 2月18日(土) | 01:00 | 香港国際空港を出発 |
| | 06:20 | ヒースロー国際空港に到着 |
| | 10:10 | ヒースロー国際空港から Coach (高速バス) に乗車 |
| | 13:25 | Cardiff coach station に到着 |
| | | (事前にホストファミリーと連絡を取っていたため迎えにきてくれた) |
| | 14:00 | ホストファミリー宅に到着 |
| 2月20日(月) | 09:00 | CELT (英語学校) に到着 |
| | | (ホストファミリーに送ってもらった) |
| | | クラス決めのテストが実施された |
| | | (グラマーとオーラルのテスト) |
| | 12:00 | 各自昼食 |
| | 13:30 | CELT のスタッフと一緒にカーディフ大学へ行く |
| | 14:00 | 百濟先生に学校の案内とレクチャーをしてもらう |

17:00 解散し、各自滞在先へ帰る

2月21日(火)~2月24日(金) 午前中、授業見学
午後から、百濟先生より TBLT についてレクチャー

2月27日(月)~3月10日(金) 9:15~12:45 CELT (英語学校) へ
午後は最終週に行う教育実習の案を練る
百濟先生とのアポイントメントがある日は大学へ行く

3月4日(土) 7:30 カーディフ大学からロンドン行きのバスに乗る
11:00 Victoria coach station に到着 (ロンドン)
フードコート (マクドナルド) で昼食
13:00 日本語スピーチコンテストに参加 (ロンドン大学)
18:00 日本語スピーチコンテスト終了
19:00 ロンドンのお寿司屋さんへ (夕食)
(念のため翌日の朝食を購入)
20:00 Pelican London hotel and residence (ホテル) に到着

3月5日(日) 10:00 チェックアウトして、ロンドンの中心部へ
ロンドン観光へ
(セント・ジェームズパーク/バッキンガム宮殿/ハロッズなど)
17:30 Victoria coach station からバスに乗車
20:00 カーディフ大学に到着

3月13日(月)~3月17日(金) 教育実習・実習後のフィードバックセッション

3月19日(日) 9:30 カーディフ大学発のバスに乗車
13:30 Victoria coach station に到着 (ロンドン)
昼食をとる
14:30 Victoria coach station を出発
16:10 Gatwick airport に到着
16:30 ホテル行きのバスに乗車
17:00 Ibis London Gatwick airport hotel にチェックイン

3月20日(月) 8:40 チェックアウトして、空港行のバスに乗車
11:35 ガトウィック国際空港から出国

3月21日(火) 6:55 香港国際空港でトランジット

8 : 40 香港国際空港を出発

13 : 25 羽田国際空港に到着

5. カーディフでの滞在先

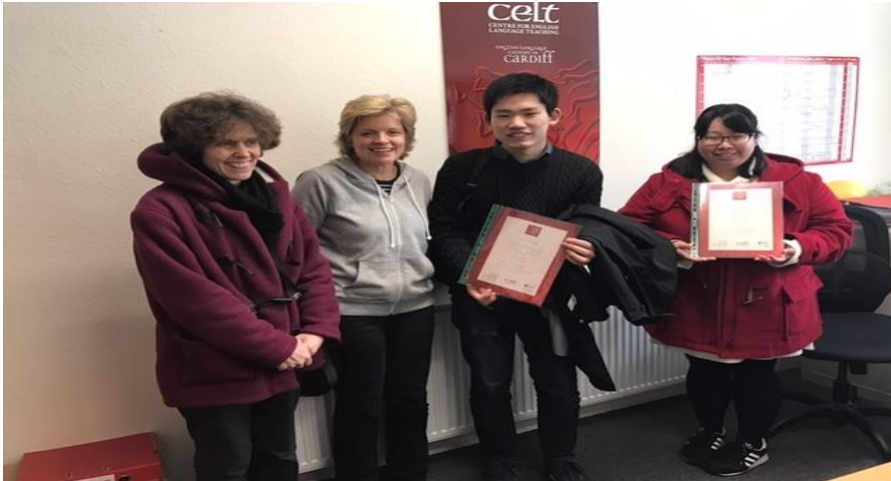
カーディフでの滞在先は CELT (英語学校) が手配してくれた。ホームステイか、CELT の寮のどちらかだ。CELT の寮は 6 名まで入居することができるようだが、このプログラムの参加者が入居できる枠は 3 名までと決まっているようだ。このプログラムへの参加者が 3 名を超え、CELT の寮での滞在希望者が 3 名以上だった場合、早い者勝ちで、寮に入居できなかった者はホームステイとなる。

今回、私はホームステイを選択していた。もちろん、今回の参加者は 2 名だったため、寮を選択することもできたが、私は、英語学習も兼ねてプログラムに参加したいと思ったからだ。私のホームステイ先からカーディフ大学までは歩いて 30 分、車で 10 分程だった。ホストファミリーはホストマザーのみだった。ホストマザーの出勤時間に合えば、車で大学か、CELT (英語学校) まで車で送ってくれた。ホストファミリーは朝食と夕食を作ってくれた。(ホームステイを選択の場合、これは費用に含まれる) なので、帰りが遅くなる場合や、食事がいない場合は、事前にその旨を伝えておく必要があった。また、私専用の部屋とバスルームを貸してくれた。また、毎週末に掃除もしてくれたため、快適に過ごすことができた。もし、ホストファミリーと合わなかった場合は、寮に空きがあれば変更してもらうことも可能である。

寮は、個人の部屋が 6 室と、バスルームが 3 室あった。なので、バスルームは 2 人で 1 室使用する形になっていた。また、キッチンとダイニングテーブルもあるため、食事を自分で作って食べることも可能だ。リビングには大きめのソファとテレビもあった。寮には多国籍の男女が共同で生活していた。シェアハウスのような印象を受けた。寮から大学までは歩いて 10 分程度だった。歩いて 15 分ほどのところにはスーパーマーケットもあるため、便利な立地と言えるだろう。また、プログラムへの参加者が寮での滞在だった場合、寮を選択していれば、あまり時間を気にせず協力して作業がしやすい場合もあるだろう。特に今回は参加者が 2 人だったので、協力して作業を行う場面が多かった。私がホームステイを選択していたこともあり、もうひとりの参加者と協力して作業がしにくい場面もあった。

6. カーディフについて

カーディフという町はそんなに大きな町ではない。大学から歩いて 10 分ほどで町の中心部までいくことができる。中心部にはショッピングセンターのようなものがあり、服や食品など様々なものを購入することができる。昼食をとる際、カフェでサンドイッチなどを購入することも可能だし、パブに行って何か食べることも可能だった。パブに行けば、フィッシュアンドチップスやハンバーガー、イングリッシュブレックファーストなどを食べるすることができる。店によって少しずつ味が違うので、お気に入りの店を探してみてもいいだろう。



また、カーディフは雨が
多いように感じた。急に降って
くることも多いため、折り畳み傘
を持っていると便利だろう。

7. 百濟先生からのレクチャーと教育実習について

第1週目、TBLT(Task Based Language Teaching)という第二言語の教授法について百濟先生からのレクチャーを受けた。第2・3週目、英語学校に通いながら、自分たちでタスクチェーンや教案を作成していった。週3回程度、百濟先生にアポイントメントを取って、タスクチェーンや教案のアドバイスをもらった。第4週目(最終週)、その教授法に基づき、教育実習を行った。学習者は(CEFR)のA2レベルの大学2年生だった。クラスは2クラス設けられていて、各クラス約10人で構成されていた。教育実習は、50分×2を1セットと考え、同じテーマについて2セット分の授業を行った(クラスが2つあるため)。3月13日(月)、音地祐弥が「リーダーシップ」というテーマで50分×2回×2セット分の授業を行った。3月14日(火)と16日(木)には、私が「成功」というテーマで授業を行った。2日間に分けて行ったため、各日50分×2回ずつ授業を行った。3月17日(金)、音地祐弥と私で、「平和」というテーマで50分×2回×2セット分の授業を行った。教育実習の様子を百濟先生が録画してくださっていた。そのデータをフィードバックの時にももらった。

8. 英語学校(CELТ)について

2月20日(月)午前9時に英語学校へ行った。私はホームステイを選択していたため、ホストファミリーに英語学校まで車で送ってもらった。英語学校に到着後、CELТを運営している校長先生のような人にあいさつに行った。その後、クラス分けのテストが行われた。1枚のプリントに25問書かれていて、すべての問題が解けたら、試験監督(そこまで厳かな雰囲気ではないが)に提出して採点してもらう。一定の点数を超えていれば、同じ形式の次のプリントが渡され、問題を解いていく。問題はすべて文法問題だった。その後、別室で1人ずつ、オーラルでのテストが行われた。どんな能力を向上したいか、趣味はなにか、などの簡単な質問をされた。この日、テストを受けたのは私を含めて5人だった。全員オーラルテストが終わると、カーディフの町について45分ほどのレクチャーがあった。

実際、私が英語学校に通っていたのは、2月27日(月)から3月10日(金)の2週間のみだった。私はIntermediate(CEFRでいえばB1レベル)のクラスだった。クラスに

はトルコ人やブラジル人、スペイン人、サウジアラビア人などいろいろな国の学習者がいた。教師は、レイチュラというとても元気の良い女性の方だった。授業はすべて英語で、教科書はコピーして渡してくれた。リスニング・スピーキング・リーディング・ライティングの全ての技能を向上させようという授業だったが、私は文法を重んじているように感じた。3月10日(金) (授業最終日) には、証明書と授業の評価が書いてあるものをくれた。

9. 日本語スピーチコンテストとロンドン観光

3月4日(土)・3月5日(日)、私は、「第12回大学生のための日本語スピーチコンテスト決勝大会」に見学し、その後、観光するために、ロンドンへ行った。私は、カーディフからロンドンまでの往復のバスとロンドンでの宿泊地(ホテル)を事前に予約していた。往復のバス代は約25ポンドで、ホテルは約65ポンドだった。ロンドンに到着後、ロンドンの交通機関で使用できるOyster cardを購入した。Oyster cardはICカードで、購入の際、入金すれば、ロンドンのバスや地下鉄でどこでも使用できるものだった。日本でいえば、ICOCAやPITAPAのようなものだ。

3月4日(土)、13時から18時まで「第12回大学生のための日本語スピーチコンテスト決勝大会」を見学した。スピーチコンテストは、Individual Presentation Category・Speech Category・Group Presentation Categoryの3つのカテゴリーに分かれていた。この中でも、Speech Categoryはとてもレベルの高いスピーチを聞くことができた。全カテゴリーのスピーチとプレゼンテーションが終了した後、参加者と優勝者にそれぞれ賞が贈られていた。スピーチコンテストが終了後、お寿司屋さんへ行って、夕食と翌日の朝食を購入してから、事前に予約していたホテルへ向かった。ロンドンの中心部からホテルまでは地下鉄で約20分ほどだった。

ホテルは事前にAgodaというサイト通して予約していた。チェックインの際、予約書の提示を求められた。その後、ホテルからの同意書のサインを求められた。その後、ホテルのWi-Fiのパスワードをもらってから、部屋へ向かった。私の部屋はシングルで、道路沿いだったため、夜は工事の音が少しうるさかった。

翌日、10時にホテルをチェックアウトして、ロンドン観光に行った。観光の際には地下鉄を使用した。セント・ジェームズパークやバッキンガム宮殿へ行った。バッキンガム宮殿では衛兵交替式を見ることができた。その後、近くのステーキハウスで昼食をとり、ハロッズへ向かった。ハロッズはイギリスの百貨店で、お土産を購入することができた。ハロッズではアフタヌーンティーを飲んだ。その後、帰りのバスに乗るためにVictoria coach stationに向かった。バスに乗る際には、予約書のコピーか、予約時に送られてきたメールを運転手に提示すれば乗車することができる。17時半に乗車し、21時にカーディフ大学に到着した。私はホストファミリーが車で迎えにきてくれていて、帰宅した。

10. 終わりに

カーディフ大学日本語教育プログラムを通して、私はより第二言語教育及び日本語教育に興味も持つようになった。**Task based language teaching** という教授法は私にとってとても新しい考え方だった。実際に TBLT の方法で授業を行うことはとても難しく、準備に時間を要した。その分、たくさんの気づきがあった。学習者の生の反応は私にとって、とても新鮮だった。私の説明が悪いときは、学習者に上手く指示が通らないことが何度かあった。しかし、何度か授業を行っていくうちに、上手く説明や指示ができるようになり、学習者が1回の説明で理解してくれることが増えていった。この実習を通して、私は成長することができた。そして、これからの将来も日本語教育について研究し、より多くのことを知りたいと思うようになった。

